前立腺がん

1. 診断

（1）精密検査（確定診断）

PSA検査*、直腸診、経直腸的前立腺超音波検査、前立腺生体組織検査（生検）**等が行われています。

PSA検査、直腸診等の検査は診療所と医師会病院で実施可能ですが、疑わしい場合の精密検査は北部病院への紹介が必要です。

また、本島中南部のがん診療連携拠点病院（➔P41）でも可能です。

（2）病期判定

治療の方針を決めるために、病期（ステージ／ stage＝病気の広がり、がんの進行の程度）を決定することが必要です。

各診療所と医師会病院では困難ですが、北部病院で可能です。

***PSA検査**

採血のみの検査で、血液中にある前立腺に特異的なタンパク質の一種「PSA」の値を測定します。PSAの値が高くなるにつれ、前立腺がんである確率も高くなっていきますが、前立腺肥大症や前立腺炎でも高値になることがあるため、基準値以上の値が出ると、専門医を受診し、前立腺がんであるかを確定するためのより詳しい検査を受けることになります。前立腺がんを診断するだけでなく、治療経過観察中の再燃・再発を見つける上でとても有効な検査です。

****前立腺生体組織検査（生検）**

超音波による画像で前立腺の状態を見ながら、細い針で前立腺を刺し、組織を採取する「系統的生検」が行われます。初回の生検では、10～12ヶ所からの組織採取がすすめられます。

2. 治療　※詳細は担当医にお聞きください。

（1）PSA監視療法

PSA値を定期的に測定して、治療を開始するかどうかをみていく方法です。

各診療所でも、PSA監視療法が可能な場合があります。可能かどうかは、各診療所へ問い合わせてください。

医師会病院または北部病院でも可能です。

（2）手術

病期や病状によっては、手術が必要になることがあります。

北部医療圏では困難ですが、本島中南部のがん診療連携拠点病院等で可能です。

（3）放射線療法（がんに治療用の放射線を当てて、がん細胞を破壊して、がんを消滅させたり小さくする治療）

病期や病状によっては、放射線治療が必要になることがあります。

北部医療圏では困難なので、本島中南部の放射線療法が可能な病院で治療を受けることになります（➔P45）。

（4）内分泌（ホルモン）療法（がん細胞の増殖にかかわる体内のホルモンを調節して、がん細胞が増えるのを抑える治療法）

病期や病状によっては、内分泌療法を行うことがあります。

各診療所でも、内分泌療法が可能な場合があります。内分泌療法が可能かどうかは、各診療所へ問い合わせてください。その場合は、主治療を行った病院と連携しながら、治療を行っていきます。

いずれの内分泌療法も、医師会病院または北部病院でも可能です。

（5）化学療法（抗がん剤、分子標的治療薬など）

内分泌療法が有効でない症例や、効果がなくなったときに行う治療です。

各診療所と医師会病院では困難ですが、北部病院で可能です。